

# 豊田中央クラブ 優勝

丰田中央	0 0 0 0 1 1 1	3
丰田南	0 0 0 0 0 0 0	0

【3月23日(日) 昆森公園野球場】

【戦評】0-0で迎えた5回表、岡本(3年、益富)の中越え2塁打で2死2塁とするところ

# 完封リレーで3年ぶり2回目

# 号外

第42回全日本少年野球大会  
豊田・みよし地区予選



5回を無失点に抑え試合の流れを作った先発の鈴木旺（3年・藤岡）

ここで代打に武田(3年、  
浄水)。「こちらが有  
利だからと監督に声を  
掛けでもらって自信を  
もって打席に立た」  
3回戦でも代打で安打  
を放った武田は2球目  
のストレートを強振す  
ると打球は右越えの3  
塁打で待望の先制点。  
6回にも主将の勝上

(3年、高橋)の左越え3塁打と敵失で2-0とすると続く7回にも2死3塁から山口(3年、浄水)にもタイムリーが飛び出し3-0とした。先発した鈴木旺(3年、藤岡)は5回の無死2、3塁のピンチを「変化球の調子が良かつたので思い

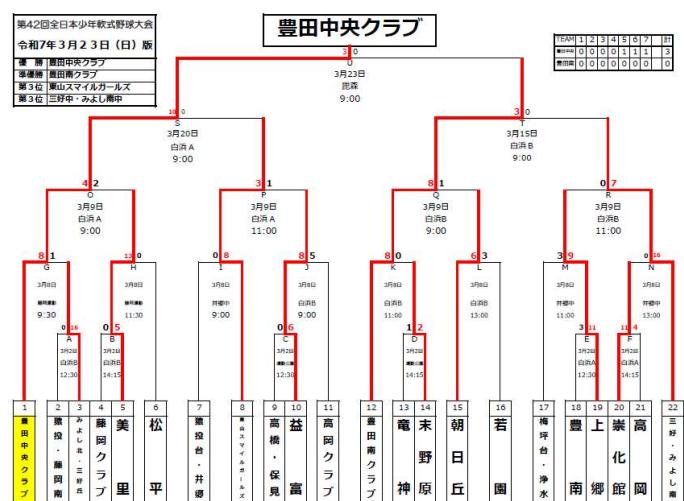
上（3年、朝日丘）にバトンタッチ。2回目の優勝をきめた。ラブは5月4日から口論義運動公園（長久手市）で行われる県大会に出場する。

切って攻めた」という  
スライダーを低めに集  
め無失点で切り抜ける  
と、6回から「最後は

全日本少年大会を迎えるにあたり、過去の反省からチームとしての準備不足を見直し取り組んできた。冬のトレーニングの比重を減らし実戦を意識した練

でも5試合を組み、実戦を増やし選手たちに経験する機会を作つてきました。大会を振り返つて「まずは投手陣の安定が一番の要因。打線

手たちは強い気持ちをうにしてあけたいし選もつて挑んでもらいたい。そして中央クラブの先輩たちの気持ちも背負つて1つでも多く勝つていきたい」と締めくくつた。（宇田）



先制タイムリーの武田(3年・浄水)

## 県大会に向けて

は秋よりもしっかりと捉える選手が格段に増えた」と川本監督。川上、鈴木旺、山口など安定した投球をした投手陣の成長をたたえた。打線も3回戦の美里戦では7回2アウトまで追い詰められながら4点とつて逆転勝ちするなど劣勢に立たされても粘り強く戦えるようになつた。準決勝、決勝からは長打も多く出るなど確かな成長をみせた。